

新品種「紀州絹莢1号」の育成

ハカマが無く、出荷調整が楽に

はじめに

本県のきぬさやの主要品種は「美笹」であり、産地では2莢付きの果房収穫（アベック莢）を行っている。しかし、「美笹」は果梗に小包（ハカマ）が発生しやすく、出荷時にこれを除去する必要があるため、余分な労力を要する。そこで、ハカマの付きにくい品種の育成に取り組んだ。

育成経過

平成元年に「美笹」と導入系統「W57」を交配し、F₂を採種した。その後、試験管内で世代を促進し、F₆をガラス温度で栽培して個体選抜を行った。さらに、系統選抜をすすめるため、平成6年に育種目標に近い1系統「4-1」を選抜した。その後、特性調査、生産力検定、現地適応性検定を実施した結果、本系統を有望と認め、平成9年、知事により「紀州絹莢1号」と命名された。

新品種の特性、収量

(1) ハカマの発生率と莢の特性

ハカマの発生率は、「美笹」は11月、12月、1月、2月にそれぞれ61.2%、70.5%、43.8%、22.2%と高かったのに対し、「紀州絹莢1号」は11月が50.6%であったが、12月が15.1%と低くなり、1月以降は2%以下で、ほとんど発生しなかった（表1）。莢の大きさ、形、色、軟らかさ等は「美笹」とほぼ同じである。

表1 新品種「紀州絹莢1号」の莢の形質とハカマの月別発生率

品 種	莢 の 形 質							果 梗 の 小 葉 発 生 率				
	長さ	幅	厚さ	重さ	曲り	軟硬	色	11月	12月	1月	2月	3月
	cm	cm	mm	g	*	*	*	%	%	%	%	%
紀州絹莢1号	7.9	1.6	3.1	2.1	板状	軟	緑	50.6	15.1	1.5	1.3	0
美 笹	8.0	1.6	3.2	2.1	板状	軟	緑	61.2	70.5	43.8	22.2	5.2

注) ハウス栽培、平成7年9月14日は種 * 種苗特性分類審査基準による

表2 新品種「紀州絹莢1号」の生育、開花特性

品 種	草 丈	節 数	節 間 長	茎 径	分 枝 数	開 花 始 め	初 花 房 節 位	花 色
	cm		cm	mm	本	月. 日	節	
紀州絹莢1号	75.9	22.2	3.4	5.1	1.4	10. 15	11. 0	白
美 笹	93.4	22.5	4.2	5.7	3.1	10. 16	12. 1	白

注) ハウス栽培、平成8年9月13日は種、平成8年11月6日調査

(2) 生育、開花特性

「美笹」に比べて草丈と節間長が短く、開花時期が若干早い。花色は白である（表2）。

(3) ハウス栽培における収量

「紀州絹莢1号」のハウス栽培における収量は、2月まででは、「美笹」より多く、4月までではa当たり289.9kgで、「美笹」に近い収量が得られた（図1）。

おわりに

新品種「紀州絹莢1号」は「美笹」と比較して、莢の特性、収量がほぼ同じであり、ハカマが付きにくい利点がある。本品種の導入により、出荷調整の省力化が図られ、きぬさや産地の維持、発展に役立つものと思われる。なお、この試験は県農協連合会と共同で行ったものである。（育種部 藤岡 唯志）

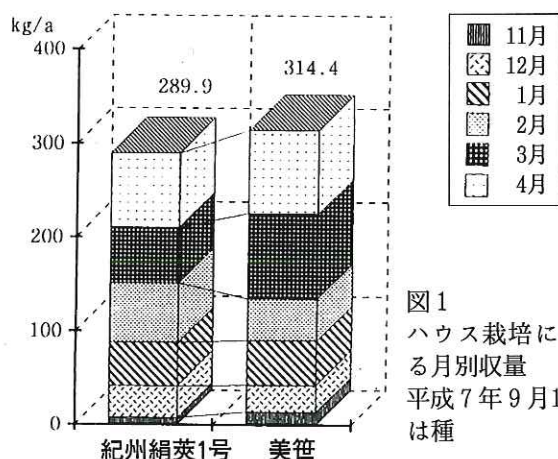


図1 ハウス栽培における月別収量
平成7年9月14日は種